

Message

奈良加代子看護部長にきく “チーム力&専門性”



町田市民病院
奈良 加代子 看護部長

Profile
横須賀市に生まれ、小学5年生で町田市に移住。町田市立高等看護学院を卒業して町田市民病院に入職。副看護部長のとき医療安全管理者になり医療安全対策室を立ち上げる。2007年から看護部長。

町田市民病院の看護師さんたちの特徴をPRしてください。
奈良 幅広い年齢層と経験豊かな実践力のある看護師が沢山います。そしてチーム力も高く市民病院へのコミットメントが強いと思います。

「病院で働くなかでも大多数を占める看護師約430名の大集団をまとめる看護部長は人知れず苦労が多いと思いますが・・・」
奈良 問題解決の日々です。各部門間の調整や病棟、外来の問題、また、職員の個人的な問題への対応などです。特に仕事を辞めようか、続けようか、岐路にたっている職員の場合には、一緒に考える機会を持つように努めています。

「ご自身、看護師という仕事に特別な思いを持った瞬間はありましたか？」
奈良 たくさんあります。印象に残った一例をあげれば、ある新婚の奥様が肺がんで手術をされることになった時のことです。夜勤で病棟の近くまで行くところ主人が立っていません。「どうしたのですか」ときくと「貴方が夜勤で来る」と聞き待っていました。」

奈良さんに相談したかったですね。
奈良 「妻は死んでしまうのか、不安でどうしていいのかわからない」・・・当時まだ卒業したての私は、何もできませんでしたが、その時に患者さまや、ご家族に寄り添い支えていくことの大切さを学びました。



▲病棟の看護師長との情報交換は欠かせない

「どうしてその特徴が育まれたのでしょうか？」
奈良 町田市が開設した看護学校を卒業した仲間が、青春を共有し看護に情熱を燃やしてきたことが、おおきな要因だと思っています。ちなみに私もその第一期生です。

「これからの抱負と目指している看護は？」
ひとつは看護師としての役割を拡大していく取り組みです。今年度は糖尿病や感染などの認定看護師を目指し4名が研修に行っており、質の高い看護の提供ができるようにさらに教育を充実させていきたいと考えています。また私たちは患者さまに信頼され、満足していただく看護を実践し、そして患者さまが「市民病院に行ってもよかった」と感じ、職員も「この病院で働いてよかった」と思える病院でありたいと思っています。



▲副看護部長と共に課題解決方法を検討する

「四季折々」
「夕、「医者」の言い分」
(中経出版)の著者、野田一成さんと歓談した。野田さんは警察まわりからはじまってNHKの放送記者を6年半、そのあとと大学医学部に入り、医師になった人だ。いまは東京都内の病院で内科医として勤務しているが、日々仕事にやり甲斐を感じ、転職してよかったと思っているようだ。医療についての提言を聞き、共感する点多かった▼マスコミの医療報道についても論議し、救急車のたらいまわしやトラブルはよくニュースになるが、「受け入れ拒否」という表現は正しいのだろうか▼正確には「受け入れ不可能」が実情だ。患者さんを受け入れたくないが、担当の医師がいない。いても手術中といった例が多くやむを得ずお断りしている。いつでも受け入れ可能な状況をつくるために努力しているが、なお時間のかかることを知ってほしい。
(四方)

駐車場整備工事進行中です!!

患者様や周辺住民の皆様には振動や騒音など、大変ご迷惑をおかけしております。市民病院第4期工事としての、駐車場建設工事は、現在、杭・基礎工事を進めております。

建設工事完了まで、振動や騒音、粉じんなどには、特に細心の注意をしておりますが、それでもご迷惑をおかけすることもあるかと思えます。2010年9月30日の完成に向けて、何とぞご理解とご協力の程、よろしくお願致します。

なお、建物規模は鉄骨造、自走式2層3段300台収容です。



2010年度第一回「町田市病院事業運営評価委員会」開催

昨年度に引続き、2010年度第一回の町田市病院事業運営評価委員会が6月24日、開催されました。当院からは中期経営計画の進捗、2009年度決算、病院機能評価の更新について報告しました。委員からは、待ち時間対策や、市民病院の医療の質についての意見をいただきました。

ご出席の委員のみなさん
 藤一郎(旭町2丁目町内会長) 牧
 宏暢(町田市医師会副会長) 増
 岡和子(病院ボランティア) 水町
 浩之(経営コンサルタント) 山内芳
 (税理士) 50音順、敬称略

町田市民病院ってどういう病院?

連載 6 食事療法の大切さ 栄養士の誕生



栄養士は、世界中の人々が大戦の影響を受け、食糧不足による栄養失調で苦しんでいた1917年、米国に誕生しました。日本といえは、貧困と低栄養による結核の蔓延、また食糧不足にも苦しんでいた大正3年、佐伯 矩(さえき ただす)博士が栄養改善の重要性を訴え、世界初の「栄養研究所」を設立し栄養療法の研究に邁進している頃でした。

しかし、研究だけでは栄養改善は困難を極め、実践的指導者による徹底した食生活の改善が必要であるとして、大正14年「栄養学校」を設立し、翌年15名の卒業生を世に送り出しました。これがわが国における栄養士の誕生です。

戦後、食料の輸入や生産性の向上により、平均寿命の延伸、

子供の体位の向上と低栄養問題は解決していききました。その時、栄養士は栄養改善運動を積極的に展開していききました。

しかし、食生活が豊かになった近年、栄養問題は複雑化してきました。過食による肥満や生活習慣病は年々増加する一方で、高齢者や若年女性に新タイプの低栄養が見られるようになったからです。

昭和37年に、傷病者に対する食事療法のため必要な栄養の指導にあたる国家資格の管理栄養士が誕生します。現在ではほとんどの病院に管理栄養士を置き、疾病治療のための栄養指導が行われています。

生活習慣病は食事療法が治療の大切な柱となります。食生活が乱れていては薬も効きにくいのです。しかし、食事療法は患者自身が実行しなければならず、ライフスタイルの大きな変更を伴うことがあるため、ストレスを感じる人もいます。管理栄養士は病態を正しく把握し、その人に合った適正なエネルギー量とバランスの良い食事ができるように、患者の話を聞き問題点を見つけて、日々の食事を適切に選択できる



▲糖尿集団指導風景

▲バイキングメニューの一例

現在わが国における糖尿病患者は、糖尿病の可能性を否定できない人を含めると、2300万人です。また、合併症のひとつである糖尿病性腎症で透析を始める患者は年間1万5千人以上です。町田市民病院でも糖尿病専門外来があり年間1500人の患者が来院し、入院加療や教育入院が必要な患者は300人を超えます。

より良い栄養指導を行うため管理栄養士は全員、糖

▲栄養科スタッフ一同



▲栄養科スタッフ一同

よう援助していきます。

また、町田市民病院では8年前から糖尿病外来集団指導に「バイキングでエネルギー合わせ」という企画を行って好評です。これは、主食、主菜、副菜を複数用意し、自分の必要エネルギーに合わせて好きな料理を選び、量や味付けをみる企画で、楽しい食事指導の一つです。

疾病を治療するための、特別な食事があるわけではありません。生活が多忙化するなかで、食生活はながろにされがちです。しかしその中で、私たち栄養士は皆、旬の野菜や魚を中心に食卓を豊かに、楽しんで食事をして欲しいと思っています。日々の食事で栄養素をバランス良くとり、食事の偏りを正すことが疾病を治療、または予防し、健康の礎となるからです。

栄養科長 吉川静枝

えて 看護士さん

Vol.6



みなさんは、フロレンス・ナイチンゲールという人を知っていますか。

看護師といえば、ナイチンゲールと出てくるほど、有名な偉人だと思えます。それでは、ナイチンゲールについて知っていることはどのくらいありますか。

クイズです。

1、ナイチンゲールは、病院などの現場で約何年働いていたでしょうか。

2、ナイチンゲールは、1820年に生まれ、90歳まで生きました。彼女は結婚したでしょうか、生涯独身だったでしょうか。

3、ナイチンゲールには、非常にもしろい行動があったといえます。それはどんなことでしょうか。



ナイチンゲールのことは、たくさん本や、伝記にもなっていますし、今はインターネットでも調べられます。ナイチンゲールと言えば、クリミア戦争で献身的な看護を行い負傷した兵士を救ったとして、イギリスの英雄的な扱いを受けたことが挙げられます。ですから、彼女の伝記などを見ると必ず、ランブの明かりを持って、病室を見回っている様子が描かれました。おそらく、みなさんのイメージもそういうものだと思います。

しかし、ナイチンゲールは、イギリスでは大金持ちの娘で、仕事をすることも、勉強することも、ましてやその時代、召使いのような身分の低い人がすると考えられていた看護師になることは、反対されていました。しかし彼女はあきらめずに、隠れて夜に勉強していたと言われています。

ナイチンゲールは、実家がお金持ちでしたから、イギリス政府と関連のあるような人物と友人になることが出来て、そのおかげでイギリス政府や皇室にも強いバックアップを持っていたといえます。また、ナイチンゲールは、非常に本が好きで博学、母国語以外にも話ができ、特に数学・統計といったことがとても好きだったようです。ですから、家族と海外旅行に行っても、すべてを書き残し、データ分析

したりすることを楽しんでいたり書かれています。

ナイチンゲールは、看護や病院についてとことん調べ、学びました。そしてやっと30〜33歳の時に、看護師の教育をしている病院に行き、看護について学ぶ機会を得ます。その後34〜36歳のときに、クリミア戦争で負傷した兵士を看るためにスクタリという場所の病院に行きました。傷ついた兵士の看護と、その時代には非常に不衛生でろくに治療もされない軍の病院の改革を行いました。

戦争が終わり、ナイチンゲールは家へ戻ると、イギリスで女王に病院の現状について訴えたり、清潔で、病人が回復するために必要な看護と環境についてのルールを本に書いて示したり、病院や看護師を養成する学校を作ったりしました。

彼女は看護師として、病院という現場には、2〜3年しかいなかったのですが、その時の働きと、その時に得たデータや経験をもとに、その後たくさん改革を行ったわけです。

ナイチンゲールは生涯独身でした。もちろん彼女にプロポーズした男性はいましたが、彼女は強い使命感に燃えていました。

もともと体が強い方ではなかったようですが、クリミア戦争から戻った彼女は、体が弱っており、倒れることも多かったようです。体調の良い時には病院を見学したり、知人にデータを収集させたりして、たくさんの人にアドバイスを進言をし、活躍しました。

いかがでしょうか。あなたがナイチンゲールに対して持っていたイメージとは、違いましたか。

「看護とは何か」について書かれたものに「看護覚え書」という本があります。一度も読まないで看護師になる人はいないと思います。看護学生の頃にはだれしも、こんなに古い、しかも当たり前のご新鮮な空気、身体を清潔に保つこと、栄養をとることなどを書いた本がまだ読まれているなんて！と思うものです。しかし、看護師として働いてみると、そのすごさと、素晴らしいさがわかります。重要な看護の基本であり、原点であることがわかるのです。なお、当院でも看護において、ナイチンゲール理論を基本としています。たくさん医療機器に囲まれ、高度な技術の治療を受けたとしても、回復していくのはその人の体そのものなのです。手術の傷がしっかりとくっつくのは、細胞が分裂して、傷を覆うからです。酸素を口や鼻から流しても、それを吸収するのは肺の細胞です。昔から、人間が回復していくこと、そのものは、変わっていません。



▲当院看護部長が学生時代使用「看護覚え書」

人間が回復する自然治癒力を手助けするという「看護」の基本は、だからこそ尊い、とても魅力的なものなのだと思います。毎年5月12日は近代看護学の普及に尽力したナイチンゲールの誕生日で「看護の日」(ナイチンゲール記念日)になっています。奥の深い「看護」について考えるよい機会かもしれません。

看護科 横内

ボランティアコンサート

が開催されました

6月16日午後3時から、1階エントランスホールにて、プロの演奏家によるボランティアコンサートが開催されました。昨年引き続き実現したコンサートには、患者さまやご家族さまなど、約200人が参加されました。ピアノ、チェロ、フルートによる11曲の素晴らしい演奏が披露され、「美しい調べに心が癒され、また元気をもらいました」と感想を頂きました。音楽のもつ力や素晴らしいさを改めて感じた一時でした。



車いす20台いただきました！

6月18日(金)国際ソロボチミスト町田より、車いす20台のご寄贈を受けました。寄贈日には、町田市長と院長から団体に感謝状を贈呈しました。ご寄贈いただいた車いすは、各病棟に配置して入院患者さま用として大切に使用させていただきます。





精神科医師 多摩美術大学教授
伊集院 清一 さん

vol.6
エッセイ
Essay

「アートセラピーと病院構造」

病院は最大の治療器具である、という言葉がある。およそ、医療や看護の領域において、これほど患者に多大な影響を与えるものはないだろう。たしかに、素敵な心通わせられる医師や看護師や医療スタッフに出会うことは、病める人にとって、いかに貴重な安寧と信頼を得られることに繋がるだろうか。あの人があるから、あそこに行く、安心して治療を受けられる、という現象が起こりうる。病院でもクリニックでも、臨床の場とはそういうものだ。

しかし、彼ら(ソフト)もまた、病院という特殊な空間(ハード)に被われ、特殊な時間の中で稼働しているからこそ、その確固たる専門性や、柔らかな人間性を発揮できるのだ。芸術という人間性の内奥にある熱い血潮が、ここに何らかの重大な役割を果たさずにいられようか。医療も看護も福祉も、診断も治療も療養も、人がその門をくぐる瞬間から、受ける側と施す側の対人関係のやり取りが前景化してくる。それを優しく包み込み見つめ続けるのが、病院という医療構造なのである。

こういう観点に立って、構造の在り方や、人間間の営みを研究し、見つけ直し続ける分野がある。医療人類学、芸術医学、芸術工学といわれるものであり、町田市民病院内にある「アートワーク」も、これに含まれる。このプロジェクトは多摩美術大学他3大学の学生作品を院内に展示し、医療とアートの「癒し」という観点からの融合を目指したものである。さらにこれらは、包括統合して考えるなら、芸術臨床学、或いは芸術医療学と呼べるものの一端を担っているともいえるだろう。

病院の外形、外壁、庭やランドスケープ、内装やインテリア。その色彩・色調や手触り・肌合。廊下や待ち合い、病室や手術室の感触、そして流れる音楽。それらのなんと重要なことか。

それらをいっそう細かく、患者と治療者、人間と人間に流れる心的交流に役立てるツールとして見極め、非言語的なるものを療法的手段として顕在化するものとして、表現病理学やアートセラピー・芸術療法がある。そういう視点から照射しても、「町田市民病院アートワーク」は新しい地平を拓くものとして、我々に明るい可能性を秘めた未来を提供してくれている。まさに、Department of Clinical Art and Design と呼び得るものである。

伊集院 清一
精神科医師 多摩美術大学教授
芸術心理学、アートセラピー・芸術療法などを研究
著訳書に、「風景構成法その後の発展」、「芸術療法1 理論編」「治療のテルモビュライ」「精神医学—その基盤と進歩」「動的H-T-P 描画診断法」「芸術療法実践講座2 絵画療法II」
2000年度エルンスト・クリス賞(アメリカ表現精神病理学会賞、ハーバード大学)、
2003年度日本芸術療法学会賞受賞

編集後記

伊集院先生のエッセイにあるとおり、町田市民病院にはアートが豊富だ。さらに音楽、園芸、ペット、笑いなど療法にプラスになるものをとり入れたい。



ペットやナースカート、薬品カートなど、人間の他にも様々な物が病院内を移動します。病院の壁や設備は、これらとの接触や障害となる事を避ける必要から、デザイン性よりも安全性が求められます。入院期間中、病院を利用される時、絵画等はあっても、無機質な空間に若干ゲンナリする事があるかもしれません。そんな時、立ち寄って頂きたいのが南棟4階

庭園。午前9時から午後5時まで開放しています(但し荒天時閉鎖)。花壇には土中のパイプから水を通し、病院エントランス屋上に野外に



さの一端に触れて下さい。病院内外の花々に触れ、自然の力強さ、美しい優良賞、努力賞を受賞しました。



近い環境を実現しています。ボランティアの方々が丹精込めて育て、それに答えた植物達が創りあげた空間に、ホッとひと息ついて頂けることでしょうか。またほかに、病院南側側面花壇、10階屋上庭園(非

町田市民バス まちっこ 市民病院正門 発時刻表

| | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 8:35 | 9:20 | 10:05 | 10:50 | 11:35 | 12:20 |
| 14:00 | 14:45 | 15:35 | 16:25 | 17:15 | 18:05 |

市民病院正門 乗車

| | | |
|-------|-------|-------|
| 10:34 | 14:39 | 17:39 |
|-------|-------|-------|

町田市民バス まちっこ 町田バスセンター 行 オレンジ色のバス

| | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 8:35 | 9:20 | 10:05 | 10:50 | 11:35 | 12:20 |
| 14:00 | 14:45 | 15:35 | 16:25 | 17:15 | 18:05 |

町田市民バス まちっこ 町田ターミナル 行 きみどり色のバス

| | | |
|------|-------|-------|
| 9:30 | 12:47 | 16:57 |
|------|-------|-------|